

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ねお児童発達支援事業所東伊場			
○保護者評価実施期間	令和6年7月1日 ～ 令和7年6月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名 (31世帯)	(回答者数)	26名 (26世帯)
○従業者評価実施期間	令和6年7月1日 ～ 令和7年6月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年7月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設の設備が充実している事だと思います。 ○支援室が広く、大型遊具(サーキット)も広く組めます。 ○支援室が2部屋あり活動の切り替えや気持ちの切り替えをするスペースがあります。 ○子ども用の洋式便座がある事。 ○車は年齢にあったチャイルドシート使用。	○活動やグループで部屋を分ける事ができ、子ども達が切り替えやすいです。さらに、待つ場所、並ぶ場所も毎回変えず示している所以子ども達が自分で動けます。 ○集団に居られない場面で、過ごせる部屋があります。 ○設備の定期的な安全点検の実施。	○引き続き設備の定期的な安全点検。 ○定期的な支援の反省や必要な備品等の検討。 ○子供たち中心のわかりやすく過ごしやすい構造化の検討。
2	子どもたちの笑顔の為に!の考え方や取組だと思います。 ○できて当たり前たくさん褒め自己肯定感が上がる関わり。 ○先生達も笑顔いっぱいでの関わり。 ○子どもたちが成功体験を積めるような取り組み。 (支援会議・振り返りシート・構造化等) ○関係機関との連携。(こども園、医療機関等)	○月の会議で、子どもたちの様子や検討事項を話し合い。 ○職員は振り返りシートで、自分の支援について反省や相談を記入し児童発達管理責任者から助言をもらう取り組み。	○関連本での研修、外部研修、オンライン研修の参加検討。 ○定期面談以外でも、保護者様が相談しやすい方法検討。
3	保護者会・懇親会が開催でき安心感を持って利用して頂けるのではないかと思います。 ○法人や事業所の事を知って頂く機会とまりました。 ○事業所の取り組みや考えを知って頂く機会となりました。 ○お子様の悩みを言える場となり、保護者様の笑顔が見られました。	○資料を見ながら、顔を合わせているんな事をお伝えする事で、理解度が高かったと感じます。 ○ご家族が、なかなか人に聞けない子育ての悩みを話す場の提供、話しやすい雰囲気作り。事前に、子育て等の悩みを聞いておきテーマを出しながらお話をしました。	○今後も、懇親会の開催は定期的に年に数回開催できるように検討、準備をしていく。 ○佐鳴台とも協力し、保護者様も参加を楽しめるようなイベントの検討。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門支援実施が数名にしか提供できていない。 ○個別または少人数で計画を立て、実施する事がシステムの的にしっかり機能していない。	○提供できる職員(保育士または児童指導員5年以上の職員)が2名のため。 ○個別の時間をとるには、現場の人数が足りない時も多い。	○事業所内の提供できる職員以外に、法人内の作業療法士・理学療法士さんの事業所への定期訪問や勤務、専門的な支援の提供の検討。
2	保護者様との連絡手段が現在電話のみとなっている事。 電話がキャッチホンはついているが、先の人と通話中のキャッチホンは履歴が残らずかけなおせない事。	○メールアドレスは頂いているが、災害のみの使用と考えているためテストメールもやれていない。	○事業所用のスマホを検討中。準備ができれば、ラインまたは連絡のアプリ等検討し連絡しやすい環境を整えていく。
3	職員で発達支援についての勉強会がなかなかできていないため、職員間での支援の引き出しの差が感じられる場面がある。	○職員の勤務状況や、日々の業務、行政からの必須研修等なかなか、時間が取れていない。	○オンライン研修や、各自で本を読む等の励めをしていく。 支援会議の中で、ケースへの対応方法をみんなで話し、他のケースとも照らし合わせながら、支援の向上を念頭に行っていく。